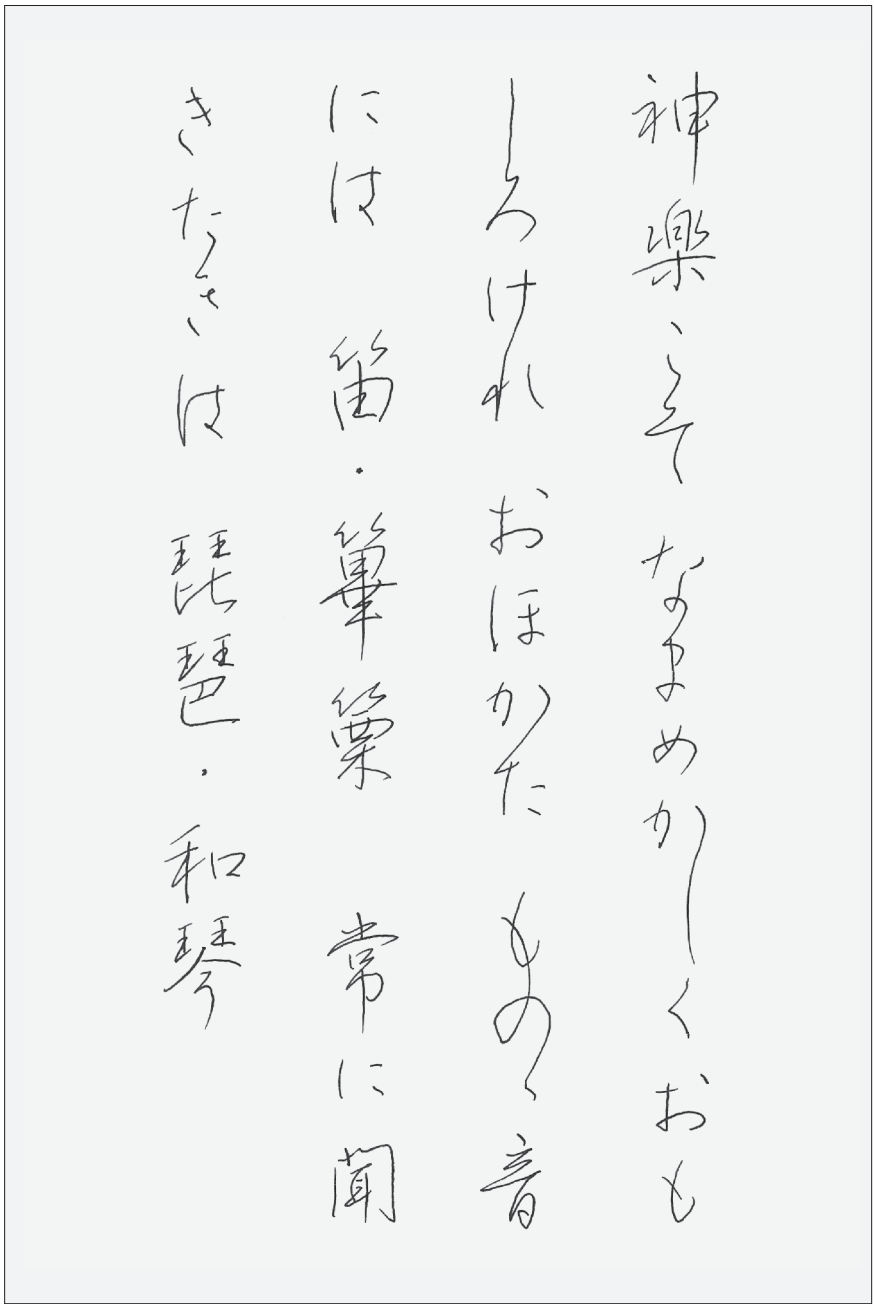


応用課題

旧字体	筆写体	常用体
神	神神	神
樂	樂	樂
	和 蘇	和



加藤 玲子 書

(つけペン)

〔読み〕

神樂かぐらこそ なまめかしく おも

しうけれ

おほかた ものの音ねには 笛・

箏ひちりき・築ひちりき 常に聞きたまは 琵琶・

和琴わこん

〔大意〕

神樂こそ、優雅で趣があり心惹

かれる。一般的な楽器の音は笛、

箏（中国渡来の竹の笛）だが、

いつも聞きたいのは、琵琶・和琴

である。

〔作者〕 兼好法師

(二二八四〜一三五〇)

〔出典〕『徒然草』 十六段

〔解説〕

ゆったりとした字くばりです

から、ペンの動きをはっきり

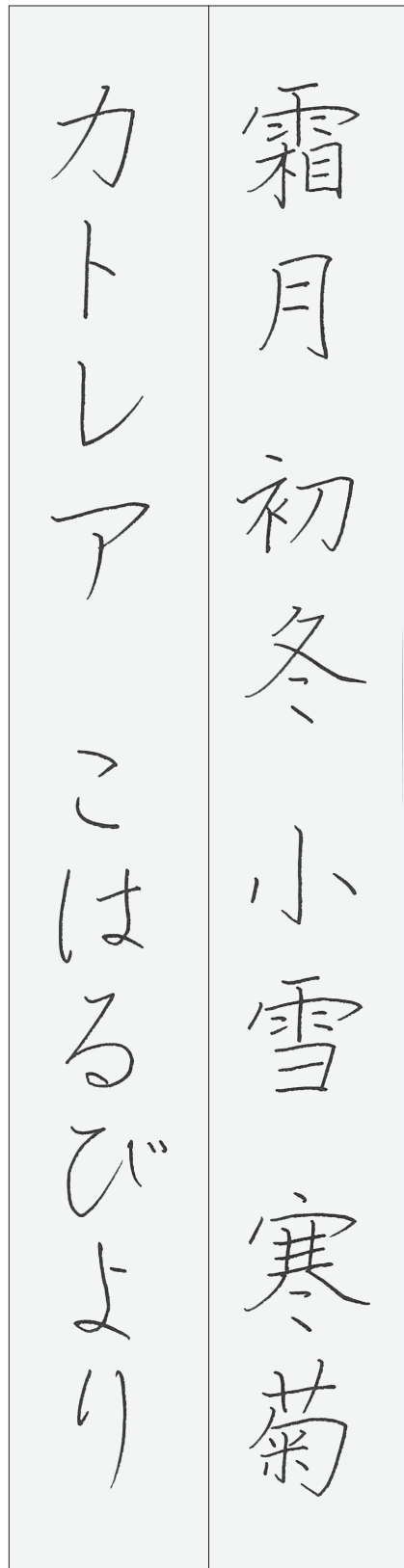
のびやかにし、後半の漢字が

大きすぎないようにまとめま

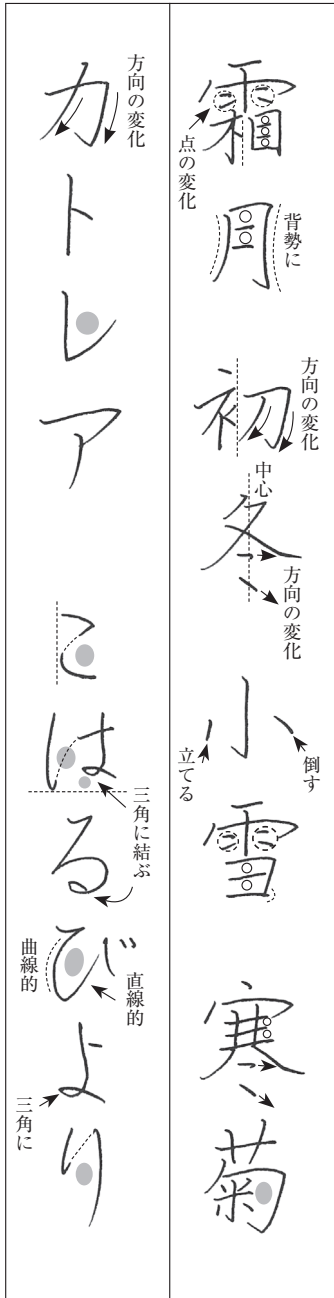
しょう。

基礎課題

福原 溪春書（つけペン）



〈解説〉



〈読み〉

霜月しもつき 初冬しゅうせつ 小雪こふゆ 寒菊かんぎく
カトレア こはるびより

〈出典〉

『最新 俳句歳時記』

〈解説〉

「霜月」：陰暦十一月の異称。「小雪」：二十四節気の一つ。北風が強くなる時期で、十一月二十二日頃。
※漢字は中心を意識してバランスよく書いてください。片かなは直線的に、平かなは曲線的にまとめ、漢字よりやや小ぶりにすると落ち着きます。

用具

つけペン、万年筆またはデスクペン、
ボールペン

つけペン ※用紙を縦にして縦書きとしてください。

堀津節子書

是
か
ま
あ

雪
の
栖
か

雪
五
尺



〔読み〕

是こがれまあつひのすみかゆきしやくせつごのゆきしやく

〔作者〕

小林一茶

(一七六三〜一八二八)

〔大意〕

帰り住むことを決心して、漂泊の旅から戻ったふるさと。目の前には五尺の雪、この地が最後のすみかと思うと、深いため息が湧いてくる。

〔解説〕

行書は画と画の間などにペンの動きを表す線が出来たり短くなったり、又省略されたりする場合があります。と同時に長く書く場合もあります。「是」の最終画はその例です。

〔用具〕 つけペン、

万年筆またはデスクペン